

第6回モニタリング委員会の議事概要及びその対応

表1 第6回モニタリング委員会の議事概要及びその対応 (1/3)

項目	NO	質問・意見等	委員会での回答	備考
モニタリング結果に対する質問 や今後のモニタリングに対する 要望	1	水位変動型実験地において、各ステップが年間でどの程度高さを変えたかということは冠水頻度に関係してくるので把握したほうがいい。 また、流水で堆積物がたまるのではなく、停滞性水域において水位変動で堆積物が堆積していることは大変興味深いので、モニタリングを継続してほしい。	主に細かい泥が堆積しているが、実験地の周辺から粒度の粗い土も流れ込んでいる。施工したばかりなので、落ち着くまで時間がかかる可能性がある。	本年度も土砂の堆積量調査を継続中である。今回の資料で調査結果を報告する(資料6 p17)。
	2	環境学習フィールド(1)の上部の池に、ヒシ、キクモ、サワトウガラシの生育が見られた。水位の上昇と低下が繰り返されることで、このように新しい植物が侵入したような印象を受けている。 また、環境学習フィールド(1)の下部の池に水草が生育していないのは、水質ではなく水温の日変動の影響が大きいと考えているのか? そうであれば興味深い現象と思われるので今後も調査・分析を進めてもらいたい。	推測ではあるが水温の影響は強いのではないかと考えている。しばらく様子を見てから今後の方針を決めたい。環境学習フィールド(2)にも、環境学習フィールド(1)の下部の池と同じような池があるので、こちらの変化も注意深く見ていく必要がある。	環境学習フィールド(1)の下部の池に加え、「環境学習フィールド(1)の上部の池」と「水草の生育する第3調節池の池」に本年度温度計ロガーを設置し、調査を開始した。
	3	本年度の調査結果から、水分条件をコントロールして、セイタカアワダチソウが蔓延するのを抑制できる可能性が示唆された。今後の調査を行ってほしい。	—	水位変動型実験地における調査を継続しており、今後の分析によってセイタカアワダチソウの生育しにくい冠水頻度について、さらに知見を蓄積する。
	4	今後、掘削回避エリアについては、貴重植物が生育している理由を明らかにすることが重要である。この点については調査をしながら、明らかにしてほしい。	—	植物重要種補足調査において、「土壌含水率の計測」と「群落タイプの記録」を実施している。今回の資料で分析結果を報告する(資料6 p22,p23)。
	5	掘削範囲と隣接する掘削回避エリアにおいて、掘削中・掘削後も重要種が残存しているかチェックが必要である。	—	今後のモニタリング計画の参考に する。
	6	植物重要種補足調査を実施していない箇所については、調査結果を踏まえて、重要種の保全について評価してほしい。	植物重要種補足調査の未実施箇所は、必要な箇所について引き続き調査を進めていきたい。	—
	7	3月上旬に設置したセンサーカメラに、イノシシ、タヌキ、ウサギ、イタチが撮影されていた。また、今後の哺乳類調査では、特に、ハクビシンや特定外来生物のアライグマには注意して調査を行ってほしい。	来年度、河川水辺の国勢調査で両生類・爬虫類・哺乳類調査を行うので、それらのデータを参考とさせていただきながら調査を進めていきたい。	本年度、河川水辺の国勢調査(両生類・爬虫類・哺乳類)を実施している。今回の資料で春季および夏季の調査結果を報告する(資料6 p28)。

表1 第6回モニタリング委員会の議事概要及びその対応 (2/3)

項目	NO	質問・意見等	委員会での回答	備考
モニタリング結果に対する質問 や今後のモニタリングに対する 要望	8	<p>環境学習フィールド(1)の池では、施工後1年目に、ニホンアカガエルの卵塊が3個確認された(平成23年度)。2年目は13個(平成24年度)、3年目は25個(平成25年度)だった。環境学習フィールド(2)では平成25年度、数え切れない卵塊が確認された(100個以上)。このように掘削地は両生類にも、かなり利用されていることから、調査するようお願いしたい。</p>	<p>来年度、河川水辺の国勢調査で両生類・爬虫類・哺乳類調査を行うので、それらのデータを参考とさせていただきながら調査を進めていきたい。</p>	<p>来年の早春季(2~3月)に、河川水辺の国勢調査(両生類・爬虫類・哺乳類)等でアカガエル類の生息状況を把握する予定である。</p>
	9	<p>来年度、ワタラセハンミョウモドキの調査を実施することで非常に心強く感じている。今後は保全についても考えてほしい。特に工事の際に、ワタラセハンミョウモドキの生息に影響を及ぼさないよう配慮いただきたい。水量が変化したり、粘土が乾燥したりするような工事であると、ワタラセハンミョウモドキがいなくなってしまう可能性がある。</p>	<p>来年度の調査については、後日アドバイスをいただきたい。</p>	<p>本年度の春季調査では確認出来なかったので、秋季に再度調査を実施する予定である。</p>
	10	<p>湿地再生事業がチュウヒの生息にいい影響を与えると思われるので期待している。第2調節池にはチュウヒのねぐらは少ないが、日中に第2調節池を利用するチュウヒが見られる。掘削工事の前には調査を行って、生息状況を把握してほしい。必要に応じて、工事中の配慮が必要と考えている。</p>	<p>—</p>	<p>昨年度の調査結果より、第2調節池をねぐらとして利用するチュウヒは極めて少ないと認識している。 なお、現在掘削している範囲については樹木が少ないことから、止まり木など樹木を利用する野鳥への影響は小さいと考えられるが、樹木の多い工事用道路については工事に先立ち、関係委員よりアドバイスをいただいている。</p>
	11	<p>セイタカアワダチソウについては、密度が低かった場所も、時間が経過すれば密度が高くなる可能性がある。掘削を計画していない箇所でもセイタカアワダチソウの駆除について考えていく必要がある。 また、鷺谷先生の研究で、ヨシ焼きがセイタカアワダチソウを抑制する効果があるということが明らかになっている。この2年間にヨシ焼きを実施しなかったことによって、ヨシ原の中にあつたセイタカアワダチソウが実をつけるようになったことも念頭において、セイタカアワダチソウの調査も強化してほしい。</p>	<p>現況を保全する地区のセイタカアワダチソウについては、調査の結果、必要が生じれば、まずこの場で対応策を議論していただくことになる。</p>	<p>—</p>

表1 第6回モニタリング委員会の議事概要及びその対応 (3/3)

項目	NO	質問・意見等	委員会での回答	備考
掘削レイアウト、掘削形状、掘削手法について	12	環境学習フィールド(2)にヤナギが繁茂してしまったが、これは、施工完了が6月で、裸地が創出された時期と種子散布の時期が重なって、かつ水分条件も良かったからと考えられる。今後は種子の散布時期に、裸地が創出される(掘削される)のを避けることが大事である。	—	今後の参考にさせて頂きたい。
	13	現在小山市が計画している環境学習フィールドの話は大変良い話だと考えている。また、関連して第2調節池の中を「自然再生エリア」と「利用エリア」に区分していいのではないかと思う。例えば、中央部は自然再生エリアが望ましい。	小山市が計画している次期掘削箇所については地元も熱心なので、しっかり調査をした上で、この委員会でも議論をしていきたい。	—
資料の作成方法に関する要望	14	土壌水分、浅層地下水位、被圧地下水位(深層地下水位)の3つがどのように連動しているか明らかにしてほしい。例えば、渇水の年に、農業用水が多く使われると、深層地下水の低下とともに、土壌水分に影響が及ぶことがあるかもしれないので、検証してほしい。	—	今回の資料で報告する(資料6 p4)。
	15	地下水のデータのまとめ方を分かりやすく工夫してほしい。	もう少し作業して、次回は議論の材料となるような資料を提供したい。	地下水位と飽和度のデータを用いて深度-飽和度グラフを作成した(資料6 p10)。また、地下水深度分布の段彩図を作成した(資料6 p3)。今回の資料で報告する。